



Round Table Discussion

兵頭一之介 司会

Ichinosuke HYODO

筑波大学医学医療系
消化器内科学教授

中島貴子

Takako NAKAJIMA

聖マリアンナ医科大学
臨床腫瘍学講座教授

篠崎英司

Eiji SHINOZAKI

がん研有明病院
消化器化学療法科医長

辻 晃仁

Akihito TSUJII

香川大学医学部
臨床腫瘍学講座教授

佐藤 温

Atsushi SATO

弘前大学大学院医学研究科
腫瘍内科学講座教授

進行・再発大腸癌化学療法におけるre-challenge治療

進 行・再発大腸癌に対する薬物療法は有効な薬剤の登場により年々進歩し、殺細胞性薬剤、抗VEGF抗体、抗EGFR抗体、キナーゼ阻害剤を複数の治療ラインですべて使いこなすことにより、今では数年の全生存期間中央値(MST)が得られるようになった。しかし、薬剤を使い切った後も全身状態が良好で転移巣も制御された状態の患者が少なからず存在し、このような患者に対してすでに使用した薬剤を再投与(re-challenge)する試みがなされている。また、重篤な副作用の予防を目的とした“Stop and Go”戦略による再投与も注目を集めている。本座談会では、兵頭一之介先生司会のもと、海外、国内の再投与試験の結果を参考にしながら、再導入を含めた再投与における課題と実現可能性について議論していただいた。

(2016年4月1日開催)

ガイドラインにおけるre-challenge治療の扱い

兵頭(司会) 大腸癌の診療ガイドラインにおいて進行・再発大腸癌に対しては最適な薬剤を使いこなすことが重要とされ、この方針に沿った治療により生命予後は著しく改善してきました。しかし、有効な薬剤を使い切った後も全身状態が良好で、best supportive care (BSC)に移行するには忍びない、あるいは積極的な治療を望まれている患者

さんを経験することは少なくありません。こうした状況での治療となると、やはり薬剤の再使用を考えるのではないかと思います。そこで本日は、現在のところエビデンスレベルは低く今後臨床試験で解決すべき内容も含まれると思いますが、進行・再発大腸癌の化学療法におけるre-challenge治療をメインテーマとして、エキスパートオピニオンや使用経験などを交えながらディスカッションをお願いしたいと思います。re-challenge(再投与)とは、